

『ちょっと?!いつまで待たせるわけ?!
リハーサルからこんな調子で
当日成功するわけ無いでしょ?!』

『そのあんた!!』

『さっきっから段取り
悪いのよ!!周り
見て見なさいよ』

このミスコンは今の私にとって
とても重要な意味を持っている

『それともあんた...
私の将来がかかったこのミスコン
台無しにして責任が取れるわけ?』
「すみません...」

私には
叶えなければならない
夢がある

女子アナウンサーになる

そのためにもこのミスコンで
優勝し私の美貌をこの世に
知らしめる必要がある...!!

こんなトロい奴に人生台無しにされちゃ
たまったもんじゃないわ!!

『申し訳：御座いませんでしたっ…!!』

『うちのから話は聞いてるよ』

芳野みうちちゃん♡

随分世話になったそうじゃないか』

迂闊だった…
先週のリハーサルで
注意したあの委員会の生徒…



その叔父がテレビ業界の
権力者だったなんて…!!

「女子アナになりたいそうじゃないか
みうちちゃんは♡」

「私が上に言っただけでもないんだがね
どうだい？少しは反省したかな？」

『何もこんな恰好させなくても…!!』

女の子にこんな恰好させて…
悪趣味で最低なこんな奴に
謝罪しなきゃいけないなんて
一生の汚点っ!!

『条件…?』
「まあいいだろう条件を飲めば
元通りミスコンでも女子アナでも
勝手にすればいい 何なら
多少融通してやることも出来るぞ?」

「ミスコンまでの期間
私の性処理をしる
それが条件だ」

!?

「出来ないか?
それならお前の人生もここまで
だぞ? お前のような女なぞ
いくらでも変えが効くからなw」

断ればミスコンも女子アナも:
私の夢全部が無くなっちゃう
こんなくだらない男のために:
そんなの...

「わ...わかったわ!!やるわよ
ただし本番とキスは無しにして!!
それ以外なら言う事聞くから!!
それでいいでしょ?」

ブルンッ

「なっ...そんなっ最低!!
女を何だと思っ...」

初めて見る男のソレ:
想像してたよりずっと
大きくて...凶悪な形
こんなのを相手に
性処理なんて...

ぷち

あゝ

ぷち

んゝ

「何を偉そうに言ってるんだ
頼み方ってものがあるだろ
性処理要員としての自覚をもて
みう」

「お...お願いします...
オマ...コとキスは:
まだいたことが無いので
許してください...それ以外は
何でもしますから」

「はははwwやれば出来るじゃないかw
まあいいだろう
その分たっぷり私を楽しませろよ?」

あゝ

「記念にその顔に射精してやる
しっかり受け止めろ」

最悪だ...こんな男の欲望の
捌け口にされるなんて
でも...

これも全部
夢のため…

「はははWその可愛い顔に
精液は映えるなW
教えた通り性処理雌口上だ」

「調子に乗ってた雌豚に
ザーメン下さり…ありがとうございます…」

ハ
ロ
オ

はー

はー

はー

「よし♡これから毎日
付き合ってもらうからな
立派なメス豚にしてやるぞみう♡」

それから毎日
この男の欲望のまま
身体を開発され尽くした…

お♡

お♡
ら♡
え♡

ググ…

お♡
お♡
♡♡

「ほらみうつ!!
いま何個入ってるんだ?
ちゃんと数えてるのか?」



わかんない♡

あ♡

おしりめえ♡

「大学生にもなって
算数も出来ないのか？w」

ハッ

あッ

ハッ

ガッ

ガッ

「そんなに女子アナなんかにな
れるわけないだろw...」
お前は男の性処理担当の
雌豚が一番似合ってるぞ？」

体験したことのない快感に
押しつぶされそうになりながら
出し入れされる玉の数を
数えようとすると...

一番敏感な所には
パイプを当てがわれ...

お尻の穴に入っている玉の数を
数えさせられる...

余計にお尻の穴に
集中してしまい

快感を強く感じてしまって
また絶頂してしまう...

おほまお♡

!!

ブホホホ♡

「やり直したみう
出来るまで何度も
ケツ穴ほじり終わらんからな」

今日はもう何度も何度も
お尻でイってしまっている

ミスコンまでの期間中
私は処女のまま身体の
隅から隅までこの男に
開発され続け...

ミスコン当日ー

「似合ってるぞ♡みう♡」

はっ♡

『えへへっ♡ご主人様♡
みうにこんな可愛い衣装用意してくださって
ありがとうございます♡みうは幸せ者です♡』

私はミスコン会場には
行かなかった

はっ♡

はっ♡

「いい子だなみう♡
お前は私の何だ？言ってみろ」

『みうはご主人様の性欲を処理するための
雌穴オナホです♡
今日もこんな下品な格好させられて
オマ●コ濡らして大喜びしてます♡♡』

びん♡
びん♡
びん♡

はっ♡

…もっと大切な
用事があったから♡

ご主人様に変えられた私の身体は
もうすっかり二匹の雌になっていた

人前では絶対着れないような
男から性的に見られる為だけに
作られたような…裸より卑猥な
恰好をして…

びん♡

はっ♡

ご主人様の前で媚びるだけで
条件反射で下半身が疼いて
頭がクラクラして…
ご主人様のことしか
考えられなくなっちゃう♡…

「よしよし♡こっちに來いみう
ご褒美をやるぞ♡」

『ご褒美って…』

はっ♡

はっ♡

はっ♡



「ご褒美は私のチ●ポだ♡
好きな所に挿れていいぞ♡」

あ♡♡

おちぽ♡

「但し私の性処理要員として、
一生尽くすこと、
それがご褒美の条件だ」

「一生…性処理要員…♡」

そんなの…
こんな立派なオチン●ン
見せつけられながら
言われちゃったら…♡

断れるわけ
ないっ♡♡♡

おちぽ♡
ズッ♡

ほ♡お♡

「おお♡♡処女を捧げて
いったかw
卑しい雌穴だな♡」

そんなこと
言われたって…♡

このオチ○ポー

気持ち良すぎるっー♡♡

『全く女つてのははちよろいなw
どれだけ取り纏っていても
下半身には抗えない所詮メスだ』

『ミスコンだ女子アナだ
のたまってたみうも
今ではチ○コを食る
下品な雌豚だ♡』
『出会った頃はあんなに
威勢が良かったのにな♡』

『はっはっ♡♡
ドMな雌がいきがって
すみませんでした♡
みうの締りの無いオナホ穴
もつと犯して下さい♡
旦那様ああ♡♡』

『旦那様が♡いいだろう
私の性処理妻として
飼ってやるぞみう♡』

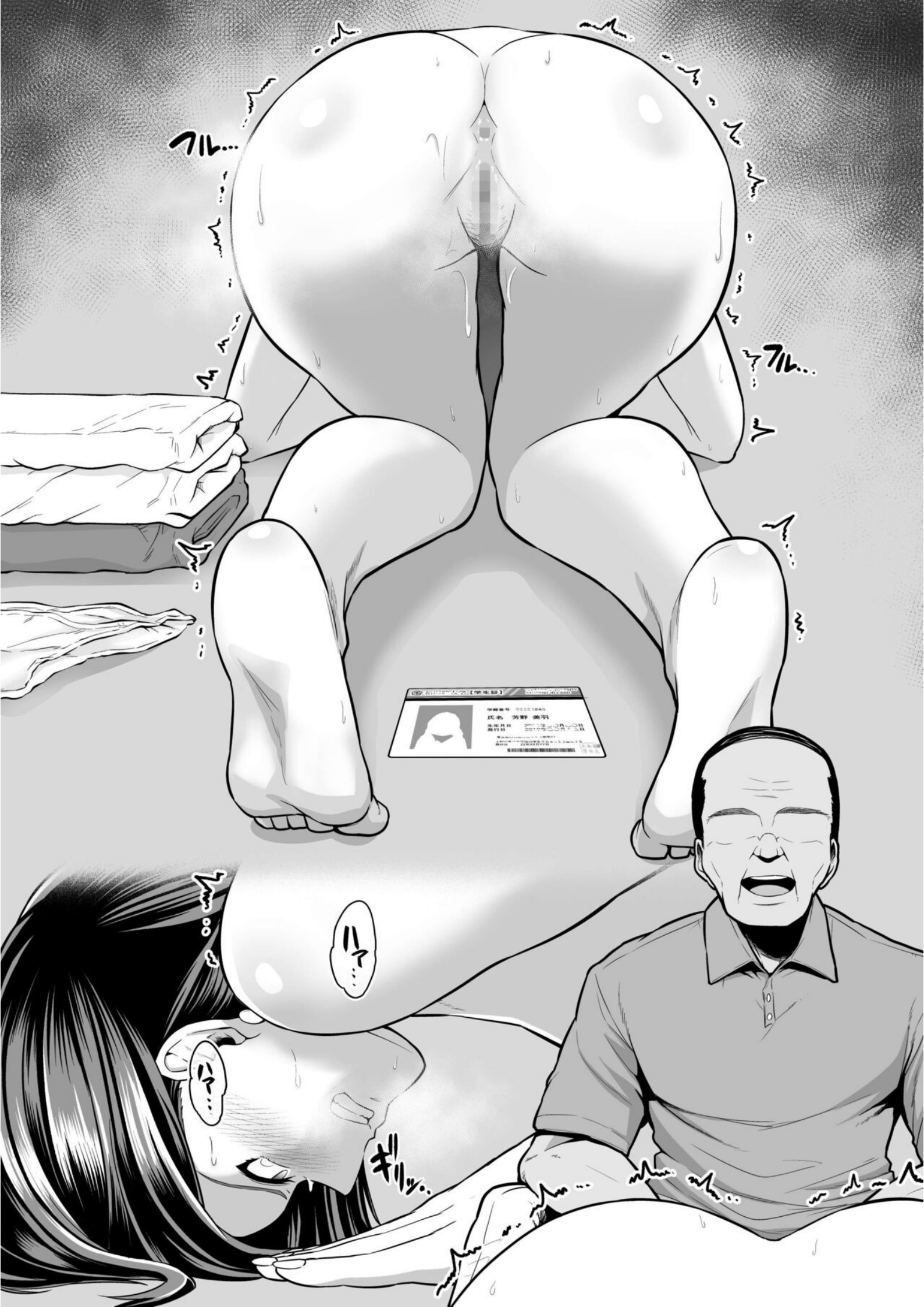
『嬉しいですう♡
大学も女子アナも全部捨てて
旦那様のモノになります♡
一生可愛がって下さい♡』

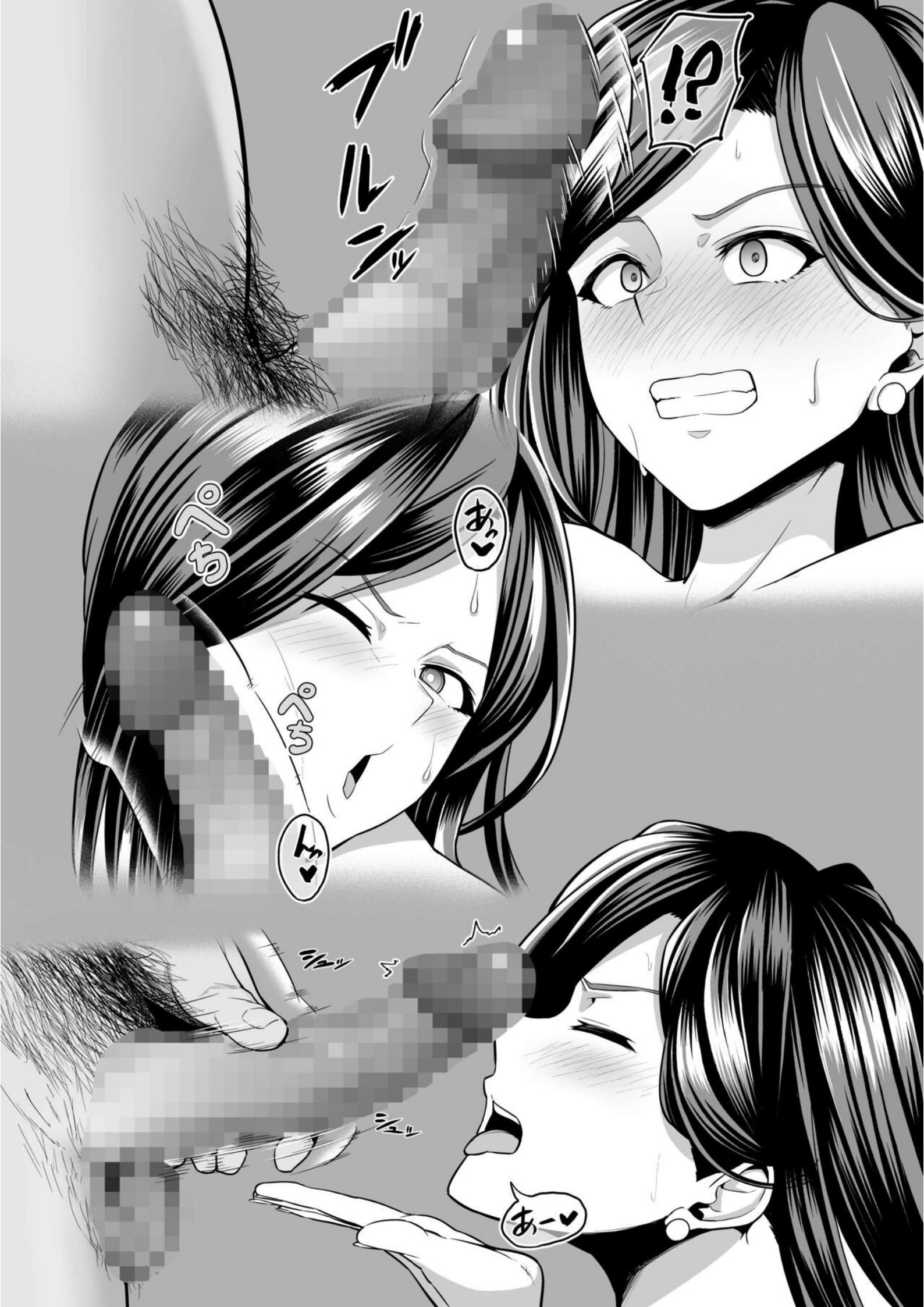
この日私の夢は書き換えられた
以前よりももっと幸せな
オナナとしての悦びに♡♡

旦那様あ♡
もっろお♡
もっろして♡

しゅき♡
キス♡
しゅき♡











おポコ

コニ

おしらめ

あ

わかん

ハ

あ

ハ

ハ

ハ

ハ

おほ

!!

ホホホ

ハ







『ちょっと!?いつまで待たせるわけ!?
リハーサルからこんな調子で
当日成功するわけ無いでしょ?!』

『そこにあんた!!』

『さっきっから段取り
悪いのよ!!周り
見て見なさいよ』

このミスコンは今の私にとって
とても重要な意味を持っている

『それともあんた...
私の将来がかかったこのミスコン
台無しにして責任が取れるわけ?』
「すみません...」

私には
叶えなければならない
夢がある

女子アナウンサーになる

そのためにもこのミスコンで
優勝し私の美貌をこの世に
知らしめる必要がある...!!

こんなトロい奴に人生台無しにされちゃ
たまったもんじゃないわ!!

『申し訳：御座いませんでしたっ…!!』

『うちのから話は聞いてるよ』

芳野みうちちゃん♡

随分世話になったそうじゃないか』

迂闊だった…
先週のリハーサルで
注意したあの委員会の生徒…



その叔父がテレビ業界の
権力者だったなんて…!!

「女子アナになりたいそうじゃないか
みうちちゃんは♡」

「私が上に言っただけでもないんだがね
どうだい？少しは反省したかな？」

『何もこんな恰好させなくても…!!』

女の子にこんな恰好させて…
悪趣味で最低なこんな奴に
謝罪しなきゃいけないなんて
一生の汚点っ!!

『条件…?』
「まあいいだろう条件を飲めば
元通りミスコンでも女子アナでも
勝手にすればいい 何なら
多少融通してやることも出来るぞ？」

「ミスコンまでの期間
私の性処理をしる
それが条件だ」

!?

「出来ないか?
それならお前の人生もここまで
だぞ? お前のような女なぞ
いくらでも変えが効くからなw」

断ればミスコンも女子アナも:
私の夢全部が無くなっちゃう
こんなくだらない男のために:
そんなの...

「わ...わかったわ!! やるわよ
ただし本番とキスは無しにして!!
それ以外なら言う事聞くから!!
それでいいでしょ?」

ブルン

「なっ...そんなっ最低!!
女を何だと思って...」

初めて見る男のソレ:
想像してたよりずっと
大きくて...凶悪な形
こんなのを相手に
性処理なんて...

ぷち

あゝ

ぷち

んゝ

「何を偉そうに言ってるんだ
頼み方ってものがあるだろ
性処理要員としての自覚をもて
みう」

「お...お願いします...
オマ...コとキスは:
まだいたことが無いので
許してください...それ以外は
何でもしますから」

「はははwwやれば出来るじゃないかw
まあいいだろう
その分たっぷり私を楽しませろよ?」

あゝ

「記念にその顔に射精してやる
しっかり受け止めろ」

最悪だ...こんな男の欲望の
捌け口にされるなんて
でも...

これも全部
夢のため…

「はははWその可愛い顔に
精液は映えるなW
教えた通り性処理雌口上だ」

「調子に乗ってた雌豚に
ザーメン下さり…ありがとうございます…」

ハ
ロ
オ

はー

はー

はー

「よし♡これから毎日
付き合ってもらうからな
立派なメス豚にしてやるぞみう♡」

それから毎日
この男の欲望のまま
身体を開発され尽くした…

お♡

お♡
らみえ♡

ググ…

お♡
お♡

「ほらみうつ!!
いま何個入ってるんだ?
ちゃんと数えてるのか?」



わかんない♡

おしりめえ♡

あ♡

「大学生にもなって
算数も出来ないのか？w」

一番敏感な所には
パイプを当てがわれ…
お尻の穴に入っている玉の数を
数えさせられる…

「そんなんで女子アナなんかにな
れるわけないだろw…」
お前は男の性処理担当の
雌豚が一番似合ってるぞ？」
体験したことのない快感に
押しつぶされそうになりながら
出し入れされる玉の数を
数えようとすると…

余計にお尻の穴に
集中してしまい
快感を強く感じてしまって
また絶頂してしまう…

おほまお♡

「やり直しまおう
出来るまで何度も
ケツ穴ほじり終わらんからな」

今日はもう何度も何度も
お尻でイってしまっている
ミスコンまでの期間中
私は処女のまま身体の
隅から隅までこの男に
開発され続け…

ミスコン当日ー

「似合ってるぞ♡みう♡」

はっ♡

『えへへっ♡ご主人様♡
みうにこんな可愛い衣装用意してくださって
ありがとうございます♡みうは幸せ者です♡』

はっ♡

私はミスコン会場には
行かなかった

はっ♡

はっ♡

「いい子だなみう♡
お前は私の何だ？言ってみろ」

『みうはご主人様の性欲を処理するための
雌穴オナホです♡♡
今日もこんな下品な格好させられて
オマ●コ濡らして大喜びしてます♡♡』

びん♡
びん♡
びん♡

はっ♡

…もっと大切な
用事があったから♡

ご主人様に変えられた私の身体は
もうすっかり二匹の雌になっていた

人前では絶対着れないような
男から性的に見られる為だけに
作られたような…裸より卑猥な
恰好をして…

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

『ご褒美って…』

「よしよし♡こっちに來いみう
ご褒美をやるぞ♡」

ご主人様の前で媚びるだけで
条件反射で下半身が疼いて
頭がクラクラして…
ご主人様のことしか
考えられなくなっちゃう♡♡



「ご褒美は私のチ●ポだ♡
好きな所に挿れていいぞ♡」

あ♡♡

おちぽ♡

「但し私の性処理要員として、
一生尽くすこと、
それがご褒美の条件だ」

「一生…性処理要員…♡」

そんなの…
こんな立派なオチン●ン
見せつけられながら
言われちゃったら…♡

断れるわけ
ないっ♡♡♡

おっ♡
ズッ♡
ホ♡

ほ♡
お♡

「おお♡♡処女を捧げて
いったかw
卑しい雌穴だな♡」

そんなこと
言われたって…♡

このオチ○ポー

気持ち良すぎるっー♡♡

「全く女つてのははちよろいなw
どれだけ取り纏っていても
下半身には抗えない所詮メスだ」

「ミスコンだ女子アナだ
のたまってたみうも
今ではチ○コを食る
下品な雌豚だ♡」
「出会った頃はあんなに
威勢が良かったのにな♡」

『はっはっ♡♡
ドMな雌がいきがって
すみませんでした♡
みうの締りの無いオナホ穴
もつと犯して下さい♡
旦那様ああ♡♡』

「旦那様が♡いいだろう
私の性処理妻として
飼ってやるぞみう♡」

「嬉しいですう♡
大学も女子アナも全部捨てて
旦那様のモノになります♡
一生可愛がって下さい♡」

この日私の夢は書き換えられた
以前よりももっと幸せな
オナナとしての悦びに♡♡

旦那様あ♡
もっろお♡
もっろして♡

しゅき♡
キス♡
しゅき♡

